

02・他の子が帰ってきたのに、こたつの中で犯される

トラック01からそのまま続き。

『はちみつ荘』一階リビング。

みつみ、主人公に覆いかぶさった状態でキスしている。

SE1 外の環境音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【部屋の外の音を、部屋の中から聞いている】

【0～5秒ほど流して『みつみ』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

SE2 部屋の環境音（暖房の音）

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【部屋の外の音を、部屋の中から聞いている】

【0～5秒ほど流して『みつみ』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

●正面 0センチ

【※しばらく※ キスする。

軽く唇が触れるだけのキスから、段々濃厚なキスになっていく】

ん……。

ちゅ♥ ちゅつ♥ ちゅつ♥

んなんう……ちゅつ♥

ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅつ♥

【ディープキスに移行する。】

ねつとり、濃厚なディープキス】
んなんう……ちゅつ♥

れーろお……ちゅ

ちゅ、ちゅ、ちゅつ。

じゅるる……ちゅ

れろれろ……ちゅるつ

ちゅぱつ ちゅるつ。ちゅぱあつ……

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

少し苦しそうなのが、だんだん楽になつていく】

はあ、はあ、ふうつ……

みつみ、会話するために少し離れる。

よほど、主人公の顔を見て確かめたいことがあるようだ……。

●正面 15センチ

「にやにやと嬉しそうに。

主人公を甘くからかう】

あく…… えつちな顔してるう……。

ここでしたいの……？

【自分から尋ねつつ、答えを聞く前にもう『いいよ』と言っている】

いいよ?』

みつみ、『正面15センチ』の距離のまま、『無聲音ささやき』をする。

●正面 15センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「ひそひそと嬉しそうに。
甘くからかう感じで」

もう気持ちよくて、ぱんつぐしょぐしょになっちゃって、気持ち悪いでしょ。
脱いじやおう……?」※

△主人公

「ここで……?」

主人公が困ったようなそぶりを見せて、みつみの表情は変わらない。

もつとも、主人公のこの反応自体单なるポーズでしかなく、自分がどのような返事をしたところで、これからどうなつてしまふかは、もうわかりきっているのだが……。

●正面 15センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと嬉しそうに。

ややゆっくりと、少し意地悪に言い聞かせる感じで。

主人公の興奮を煽っていく】

……そう。ここで。

いつもみんなで使つてることで。

このこたつでばんつ脱いで、あたしにクリさん触られてイこう？

もう我慢できないもんね♥ 今すぐ気持ちよくなりたいもんね……♥』※

みつみ、『左 0 センチ』に移動して『無聲音さきやき』をする。

もう、彼女のなかでは、これからどうするか、すべて決まっているようだ……。

●左 0 センチ 『無聲音』さきやき ※マークのセリフまでさきやく

【※1回※ 耳にキスする】

ちゅ
♥

【ひそひそと優しく。

『耳キスや耳舐めをしてあげるので、それと並行して下着を脱いで』と促している】

ほら……ちゅーしててあげるから。

下、脱ごう……？』

△主人公

「……つ
♥」

S E 3　主人公が下着を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

みつみ、左耳舐めをしながら、主人公に脱ぐよう促していく。

●左 0 センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めとキスをする。

軽く戯れる程度。主人公が脱ぐのを待つための物なので】

れんろ……ちゅ♥

ちゅつ♥

ちゅつ♥

ちゅ♥

えれえれ……ちゅ

♥

ちゅるるるるつ……ちゅつ

〔わざとらしく、音を立てて耳から離れる〕

ちゅぱあつ……
♥

S E 4 みつみが動く音

【最初から最後まで流す】

●左 0 センチ

「〔※息づかいのみ※〕で表現する。

うつとりと満足げに。

主人公が素直に徙つて服を脱ぎ、ショーツを穿いていない状態になつたので】

ふー……

〔ややつくりめに、優しくあやすように。

でも、少しセクシーに。

完全にセックスする甘い雰囲気】

脱げたねえ……

いい子だね……

ちやんと脱げてえらいねえ……

〔※3回※ キスする。

じやれる感じの、軽く触れるだけのキス】

ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅ♥

【ややゆつくりめに、優しくあやすように。
でも、少しセクシーに。】

完全にセックスする甘い雰囲気】

よかつたね……♥ これからいーっぱい♥
お股気持ちよくなれるよお……♥

【※3回※ キスする。

じやれる感じの、軽く触れるだけのキス】

ちゅ♥』

みつみ、主人公の顔を見ながら、主人公の股間に触れるために移動する。
一瞬たりとも、主人公の反応を見逃したくないらしい。

●正面 15センチ

【満足げに微笑んで】

ふふ……♥』

S E 5 みつみがこたつの中で手を動かす音

【最初から最後まで流す】

【0—1秒ほど流して『みつみ』のセリフと重ねて流す】

●正面 15センチ

「小さく漏れる感じで。

こたつの中で、主人公の股間に手を伸ばしている
んっ……♥

【※7回※ ゆっくりと呼吸する。

興奮氣味に、主人公の股間に触り始める】

……はあ、はあ。

はあ……はあ……♥

はあ、はあ、ふうっ……♥

みつみ、こうして、こたつの中で主人公のクリトリスを愛撫しようとする。
しかし、ここで……。

S E 6 かなえが玄関のドアを開ける音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 7 かなえが玄関の扉を閉める音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 8 かなえが玄関の扉を施錠する音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 9 かなえが靴を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

また、誰かが帰ってきた。

誰だろう？ どうしよう？ と思つてゐる間にもその人物はこちらへ向かつてくる。

そして、こう言つた。

▲ ボイス加工あり

【10メートルほど離れた位置から聞こえる】
「かなえ」

【家の中にいる人物全員に話しかけている。
かなえはまだ、誰が在宅なのかわかつていな
い】
「ただいま」

S E 1 0 かなえの足音

【最初から最後まで流す】

【0～1秒ほど流して『みつみ』のセリフと重ねて流す】

【その後も続く場合は、次の『かなえ』のセリフとも重ねて流す】

【『とても遠くで、ぼんやり聞こえる』から、だんだん近づいてくる】

……かなえだ。

みつみ、驚いて少し身体を離す。

●正面 15センチ

「〔※息づかいのみ※

驚いた様子で息をのむ。

まさか誰かが帰つてくるとは思つていなかつたので

……！」

かなえ、玄関から歩いてきて、廊下からリビングに向かつて話しかける。しばらくこの位置から話しかけている。

▲ボイス加工あり

〔5メートルほど離れた位置から聞こえる〕

〈かなえ〉

「みつみに話しかけている。

きよとんとして。

しつかり確認したわけではないが、靴は二人分以上あつたようになつたので。

また、リビングに主人公の荷物があるので

あれえ？ みつみさんですか？」

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

慌てながらも、なんとか誤魔化す。

かなえにこの状況をバレるわけにはいかないので。

また、帰ってきた理由を尋ねる】

⋮⋮うん！ 私、だけ。

かなえちゃん、どうしたの？

今日、遅いんじやなかつたつけ……？

▲ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

【かなえ】

「みつみに話しかけている。

一度帰宅した理由を述べる】

忘れ物しちやつて。

どうしてもないと困るんで、戻ってきたんです……。

だから、またすぐ出ますね……！」

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。
少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す

……あ、そうなんだあ……わかつたあ……。

……つ
♥』

S E 1 1 かなえの足音 2

【最初から最後まで流す】

【だんだん遠ざかる】

かなり苦しいが、どうにかごまかせたらしい。
かなえ、一度リビングから離れて自室に向かおうとする。

その気配が、だんだん遠ざかっていく。

だが、ここでどこか妙だと気づいたらしい。
足を止め、こちらを覗き込んでくる。

かなえ、先ほどより位置が少し離れている。

▲ボイス加工あり

【8メートルほど離れた位置から聞こえる】
「かなえ

「みつみに話しかけている。
きよとんとして。

みつみの様子が、何やらおかしいので
ん？ 大丈夫、ですか？」

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す

……えつ……？ だ、大丈夫って、何が……？

かなえ、再び近づいてくる。

S E 1 2 かなえの足音 3

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

【5メートルほどの距離でストップする】

▲ ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

【かなえ】

「みつみに話しかけている。
少し心配そうに。

みつみの様子はおかしいが、かなえはそこまで疑ってはいない。

かなえはみつみの様子がおかしいのを『どこかに身体をぶつけたようだ』と解釈しているので

なんか今あ、ぶつけたみたいな声出してたので……

よっぽど心配してくれているのだろう。

かなえはそのゆつたりした足取りで、リビングの入り口まで向かってくる。

だが、主人公はこたつの中に隠れているため、かなえからはみつみしか見えない。

主人公が身を隠しているせいで、リビングは全体的になんだか違和感があるが……かなえは、こう見えても急いでいる。

なので、そこまで詳しく観察しておらず、主人公がいる事には気づいていない。

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそそそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す】

……あつ♥ そ、そお。こたつの角につ。
足、ぶつけちやつて……つ♥』

▲ ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】
〈かなえ〉

「みつみに話しかけている。

少し心配そうに。

心配して、リビングの中を覗き込んでいる】

えつ。大丈夫ですか？

それ、超痛いですよね？……？」

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す

大丈夫……大丈夫！ かなえちゃんは、忘れ物取つといで！」

▲ ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

〈かなえ〉

「みつみに話しかけている。

『みつみがそう言うなら、急いでいるし、そこまで心配しなくてもよさそうかな？』と
いう感じで
はあうい』

先程よりもさらに無理があつたが、こたびもなんとかごまかした。

かなえは『みつみがそう言うのであれば』という感じで、リビングから去っていく。
足音はだんだん遠ざかり、聞こえなくなる。

S E 1 3 かなえの足音 4
【最初から最後まで流す】

【5メートルほどの距離から、だんだん遠ざかる】

5秒ほど沈黙。かなえがいなくなつたのを、確認してから話しているイメージで。

みつみ、主人公に、ちょっとかわいく怒る。

●正面 15センチ

「主人公に話しかけている。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す】

ちよつとお……♥ もお、何するの？

△主人公△

「へへ……」

だが、今日の二人はとにかく忙しい。

会話をする間もなく、かなえが無事に忘れ物を見つけ、廊下まで戻ってきたのだ。
みつみに、無事目的を果たした事を伝える。

S E 1 4 かなえの足音 5

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【だんだん近づいてきて、1回目は8メートルほどの距離で止まる】

【その後、▲1で再開する】

かなえ、先ほどよりも離れた位置から話している。

▲ボイス加工あり

【10メートルほど離れた位置から聞こえる】

〈かなえ〉

【みつみに話しかけている。

明るく嬉しそうに。

だが、元の話し方通り、おつとりと。
忘れ物を無事回収した事を伝える】

ありました！』

●正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちょっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す

よ……かつたね！ いつてらっしやい……。

気をつけてね』

△かなえ

「みつみに話しかけている。

明るく嬉しそうに。

だが、元の話し方通り、おつとりと

はい！ お騒がせしましたあ。

行つてしまふ……！』

▲ 1 ここで S E 1 4 が再開する。5秒ほど流して S E 1 5

S E 1 5 かなえが靴を履く音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 1 6 かなえが玄関のドアを開ける音 2

【S E 6 と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 1 7 かなえが玄関の扉を閉める音 2

【S E 7 と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

S E 1 8 かなえが玄関の扉を施錠する音 2

【S E 8 と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

かくして、ようやく危機は去った。

だが、みつみはまだ警戒している。

しばらく間を開けてから、ようやく話し出した。

5秒ほど沈黙。かなえがいなくなつたのを、確認してから話しているイメージで。

●正面 15センチ

「ここから再び、すべて主人公に話しかけている。

ちよつとかわいく怒りつつも、まんざらでもなさそうな感じで。

なんだかんだ、スリルを楽しんでしまつたので】

はあああ……♥

もおさあ……ひどいじやん……♥

ちよつとの間も待てない位、そんなに構つてほしかつたの？……？】

〈主人公〉

「……♥」

だが、先ほどの主人公のちよつとしたいたずらが、かえってみつみに火をつけたらしい。
先ほどまでよりも熱っぽい吐息で、主人公に話しかけてくる。

●正面 15センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「【にやにやと嬉しそうに。

主人公が恨めしそうな目で見つめてきて『待てなかつた』『構つてほしかつた』と言わんばかりなのがわかつたので】

あ～……♥ そつかあ ♥』

みつみ、『左 0センチ』に移動して『無聲音ささやき』をする。

●左 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「【とても優しく。

よしよしと、あやすような感じで】

……そうだよね ♥ ごめんね ♥

あたしがしようつて言つたんだもんね ♥

クリちゃん待ってる間、切なかつたね♥

いいよお。これから、今度こそ沢山、優しくいじつてあげるから。

ここでこのまま、イっちゃおうね♥』※

みつみ、再び主人公の股間に手を伸ばし、手慣れた様子で愛撫を始める。

こうして主人公は、一度は抵抗するふりをしながら、今のこたつの中で犯される運びとなつた。

SE19 みつみがこたつの中で手を動かす音2

【最初から最後まで流す】

SE20 みつみが主人公の性器を愛撫する音
【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【▲2 で一度ストップする】

【▲3 で再開する】

【▲4 で速度が一段階早くなる】

【▲5 で速度がさらにもう一段階早くなる】

【▲6 でフェードアウトする】

●左 0センチ

「〔※6回※ ゆっくりと呼吸する。」

興奮気味に、主人公の股間を触り始める】

はーつ…… ♡ はーつ ♡ はーつ…… ♡

はああ…… はあ…… はあつ…… ♡

〔※3回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ ♡ ちゅ ♡ ちゅつ ♡

〔声が低くなる。

にやにやと嬉しそうに。

主人公の性器がたっぷり濡れていながら確認できたので】

あく…… ぬるぬるう…… ♡

すつごいね ♡ ローションとか、全然知らないね♪…… ♡

あなたの股が濡れてる

『ぬちぬち、ぬちぬち。 ぶちぶち、ぶちぶち ♡』

つて音。

ここからでも聞こえちゃってるよ♪』

〈主人公〉

「……聞こえて……ないつ……♥』

●左 0センチ

「くすくすと楽しげに。

無理のある反論をする主人公が可愛らしいので】

え？ 聞こえるでしょ？

ふふふふつ ♥

【※耳のふちをくわえながら※ 話す。

『こっち（耳）も気持ちよくなりながら、イこうね♥』と言っている】
ほひひひもひよふなりなはら、イこうへ♥』

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、左耳を舐め始める。

●左 0センチ 『耳舐め』

【※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちよつとからかうような軽い感じで。
耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に】
ああんむ……。

えれれれれ……ちゅぱつ♥

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるつ
れーろれーろ、れーろれーろ……くぼ♥

んつく……ちゅぱつ♥

れろれろ、れろれろ、くぼつ♥

くぼぼぼぼ……くぼつ。

じゅる、じゅーる、じゅーる、じゅるつ
【※4回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅぱあつ♥」

S E 2 1 ごく小さな、軽い物音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

▲2 ここでS E 2 0が一度ストップする。

ここで、部屋の向こうでかすかな物音がする。
風の音のようだが、主人公はびくつと反応する。

〈主人公〉

「…………！」

●左 0 センチ

「余裕がある感じで笑う。

主人公の反応が可愛らしいので。

また、物音に対する見解を述べる】

あはっ ♥ びっくりしたね♪…… ♥

ただの風の音（おと）だったね。

ふふ。また誰か帰ってきたかと思つたら、違つたね
♥

【にやにやとからかう】

びくつとしたの、かわいい♪…… ♥

（主人公）

「…………つ♥」

●左 0センチ

「ふと気づいたようだ。

今の驚きがきっかけで、主人公の性器が一気にどろつと濡れたので
んく…………？」

▲3 ここでSE20が再開する。

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無聲音ささやき』をする。
主人公の様子に敏感に反応し、それを煽るネタにしてくる。

●左 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「とても優しく。

あえて優しく言う事で、かえって興奮を煽る感じで
すごい。

今のですごい、どろつと溢れてきたね…………♥

今のでびっくりして、かえつて感じちゃったの？……？
あはは、可愛い……♥」※

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

●左 0センチ 『耳舐め』

「【※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちよつとからかうような軽い感じで。

耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に】
れえろお……。

ちゅぱつ ♥

れろれろれろれろ……ぶちゅつ ♥「

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無聲音ささやき』をする。

●左 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「とても優しく。

あえて優しく言う事で、かえつて興奮を煽る感じで】

可愛いねえ……♥

たったこれだけの事で、こんなに濡らして。
こんなにぴくぴく、身体反つたり、曲げたりして♥
濡れやすくて、感じやすくて、可愛いね♥」※

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。
こうなつてしまふと、主人公はもうされるがままだ。
あとはもう、何もできずにイカされる、という未来しか用意されていない。

●左 〇センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちょっとからかうような軽い感じで。

耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に】

あんむう……♥

ちゅるつ ♥ れろれろお……ちゅるつ ♥

ちゅつぱ、ちゅつぱ、ちゅるるるつ ♥』

（主人公）

「……つ♥　あ♥　あ♥　あ……！」

みつみ、『左 0 センチ』の位置のまま『無聲音ささやき』をする。

●左 0 センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「優しくしつつも、セクシーな感じで。

主人公がイキそうなのを悟り、その手伝いをするように言葉でも助けていく感じで】
イキそう……？

うん ♥ いつでもイッていいよお…… ♥ イこ ♥

あなたのイktai時にイktaiだけ、イこ……？

こたつの中えっちな匂いにさせて、みんなで使う部屋でイこ？』※

▲4 ここでSE20の速度が一段階早くなる。

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

●左 0 センチ 『耳舐め』

「〔※しばらく※ 耳舐めをする。

主人公がイキそうなのを悟り、ラストスパート。

耳舐めもちよつと激しくする】

んつふ……♥

ちゅるつ♥ じゅるじゅる……じゅるるつ♥

くぼぼぼぼ……ちゅるつ♥

れーろ、れーろ、れーろ、れーろつ……』

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無聲音ささやき』をする。

主人公の絶頂は、もうすぐそこに近づいてきている。

●左 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【優しくしつつも、セクシーな感じで。

イキそうな主人公を優しく煽る。

少しだけ早口になる。興奮しているので。

途中、キスを交えながら煽る】

いいよ……いいよ……イつて。

イコ？ イコイコイコイコ？

ちゅ♥ ちゅ♥

イーケツ ♡ イーケツ ♡
ちゅ ♡ リョウ ♡

▲ 5 ここでS E 2 0の速度がさらにもう一段階早くなる。

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

● 左 0 センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めをする。

呼吸音も混じって、ちょつと苦しそうに。

主人公がイキそうなのを悟り、ラストスパート。

耳舐めもちょっと激しくする】

んつく……ちゅぱつ ♡

じゅるるる……じゅぱつ ♡

んんんう……ちゅぱつ ♡

ふーつ、はーつ ♡ ふーつ、はーつ ♡

んんんう……ちゅぱつ ♡

はあ、はあ、はあ、はあ。

えれれれれ……くぱつ
はーつ、はーつ、はーつ、はーつ……
んんつうつ……
んつ……
〔※ここで主人公が絶頂する。〕

〔※ここで主人公が絶頂する。〕

絶頂ポイントなのを、わかりやすく表現していただく」

んんんんうつ……

▲6 ここでS E 2 0がフェードアウトする。

主人公、ここで絶頂する。

バイトに行くまでのごく短い時間に、あっさり気持ちよくされてしまった。

●左 0センチ↓正面 30センチ

「〔※12回※ 呼吸する。

荒い呼吸が、だんだんゆっくりになつて、落ち着いて行く。
呼吸しながら、少しずつ離れていく感じで」
はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。

はあ、はあつ・

はああ・・・はあ・・・はあ、はあ・・・



みつみ、呼吸しながら少し離れて『正面 30センチ』の距離でストップする。

●左 0センチ ↗正面 30センチ

「※息づかいのみ※」で表現する。

うつとりと満足げに。

主人公が自分の手で絶頂したのが嬉しいので】

はあ……

【優しく嬉しそうに。

主人公を見つめながら。

『上手にできたね♥』という意味で言っている】

上手にイケました……

ふふ。今日初（はつ）イキだね



頑張ったね……



【※1回※ キスする。

軽く触れるだけのキス

ちゅ
♥

【優しく嬉しそうに】

大好きだよ……♥

S E 2 2 みつみが動く音

【最初から最後まで流す】

二人、キスをしながら、こたつの中で息をつく。

だが、少し外が暗くなつてきた。時間が気になつてくる。
なのでみつみは、身体を起こして壁の時計を見る。

それと共に、なぜかはよくわからないが、温度計も確認しているようだ。

●正面 30センチ

「ちょっと声が低くなる。
にやにやと嬉しそうに。

部屋の湿度計を指して言っている。
『5パー』は『5%』の略】

あー。

見て。湿度5パーも上がってる……

みつみ、『正面0センチ』の距離まで近づいて『無聲音ささやき』をする。
ささやきながら、くすくすと笑う。

どうやら湿度を確かめる事さえ、行為の一環だつたようだ。

●正面 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「くすくすと嬉しそうに。

※特に聞き手をドキッとさせる感じでお願いします※
えっちすると、湿度上がるよね……

換気……しなくちゃね♥

【※1回※ キスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ♥—※

ここでフェードアウトして終了。